

平成 28 年度特別養護老人ホーム「はなの家とむろ」事業報告

介護度 3 以上が入所基準となり待機者が居なくなった、職員が集まらないので一部ベットを閉じている等特養を取り巻く環境は厳しさを増している。

そのような中、神奈川県はサービスの質や人材育成、処遇改善等について一定の水準を満たしている介護事業所を認証し、認定証を交付し介護サービスの質の好循環を目指す仕組みとして、28 年度より優良介護サービス事業所「かながわ認証」を開始した。はなの家とむろも開設 5 年目となり、自施設の現状把握のため申請を行ったところ、第 1 回目の受賞事業所として 32 年度まで 3 年間有効の「かながわ認証」をいただくことができた。このような評価をいただけたことは名誉なことであり、今後はこれを励みとして更なる質の向上に取り組んでいきたいと考える。

また、今年度は社会福祉法改正に向けて、定款変更や役員の見直し等を行ってきたが、年度内に準備を滞りなく終えることができ、社会福祉法人の使命でもある地域事業の新たな取っ掛かりもつかめたことは収穫であった。

平成 28 年度の施設目標に沿って総括および年間を通しての実績を報告する。

1. 組織としてのチームケアの充実

- ① チームケアの要である情報共有・連携をスムーズに行う目的で、記録システム「ちょうじゅ」の見直しを実施し業務の効率化を図れた。
- ② 多くの看取りで経験した学びを踏まえ、看取りマニュアルの改訂を行い完成した。また、看護部が中心となり、「ご家族の皆さまへ 愛する人の旅立ちにあたって」という冊子を作成しご家族にお渡しすることで、最期のときを共に迎える準備ができるようになった。
- ③ 初めての取り組みである施設内成果発表会を開催し、職員同志の相互理解や意欲の向上に役立った。今後も継続して開催したいと考える。
- ④ 昨年同様、看護部、介護部、相談支援部門で実習生の受け入れを行い、それぞれの分野で人材の育成に取り組んだ。

2. 地域や関係機関から求められる施設

- ① 家族交流会、はなはな祭り、敬老会、はなはな珈琲等施設行事を通して、利用者の生活に潤いを与え、ご家族やボランティアと交流を深めるよう取り組んだ。
- ② 首都直下型地震等の可能性が高まる中、南毛利地域包括支援センターと共催で、「防災」をテーマとした地域講座を開催し、もしもに備えた学びの機会とするとともに、はなの家は災害時の緊急受入れ施設であることの周知を行った。
- ③ はなの家が地域住民が気軽に立ち寄れる場所、相談できる場所として地域から求められる施設となるべく、認知症カフェ「オレンジカフェとむろ」をオープンした。今後も月 1 回継続していく予定である。
- ④ 神奈川県高齢者福祉施設協議会理事、厚木市保健福祉審議会委員、保健

- ④ 神奈川県高齢者福祉施設協議会理事、厚木市保健福祉審議会委員、保健福祉事務所管轄の食生活対策委員等によって関係機関と連携の機会を持つとともに、三思会の包括ケア会議や福祉・介護関連事業所の会議等に参加し、グループの一員として、今後の地域包括ケア社会の中で特養がどのような役割が担えるのか検討を行った。

3. 社会福祉法人としての施設経営の安定

- ① 入居部門は、現在の加算取得を維持し稼働率 97%
28 年度ベッド稼働率平均 98.4%。施設内看取り 17 名。入院後死亡 4 名。退所 2 名。入院延 26 名。平均介護度 3.92。
3 月末現在入居待機者 47 名（内、介護度 4・5 23 名）。
昨年度（97.9%）より 0.5%ではあるが稼働率をアップすることができた。昨年より入院者が少なかったこと、ミドルステイからスムーズに入所に繋げることで空床を減らす努力が効を奏したと考えられる。
- ② ショートステイ部門は稼働率 80%
28 年度ベッド平均稼働率 81.3%。平均介護度 2.9。
常時入居待ちのミドルステイ利用者を 3~4 名受け入れることや緊急ケースの対応を積極的に行ったことで、稼働率が昨年度より 15%近くアップし、目標を達成することができた。
- ③ デイサービス部門は稼働率 80%
28 年度平均稼働率 52.7%、1 ヶ月平均 274.9 回。平均介護度 2.78。
年度途中より、重度者を受け入れる通所の弱点である入院・入所・死亡による利用者の減少が続き、また、新規獲得も思うように進まず、昨年実績（59.4%）を維持することができなかつた。次年度介護報酬改定に向けて、事業所規模や運営時間等実績を上げるためにはどのような運営が良いか検討したいと考えている。

社会福祉法改正や介護報酬マイナス改定等社会福祉法人を取り巻く状況が厳しさを増す中、入居部門は空床を減らすため新規受け入れをスピードアップし、ショート部門はミドルステイを受け入れることで安定した稼働を確保できた。今年度は通所が苦戦したが、入居・ショート部門の実績が堅調であったので、全体としては前年の実績を上回ることができた。